

F—11 定時制高校生の生活時間構造の分析結果 について

大阪府立今宮高 北橋 久子

定時制高校生の健康管理の基礎研究としてこれまで私は彼らの摂取栄養状況について考察してきた。そのなかで彼らの摂取栄養素を全体的にながめると、全国的に行なわれている厚生省の国民栄養実態調査の結果と一致し

ていなかったこと、間食をする者は栄養のバランスがかなり低いのに反し、間食をしない者がかえってバランスがよいことが認められた。本報告では以上述べた摂取 Cal と消費 Cal とのバランスを検討する。すなわち各生活行動と 1 日の消費 Cal との関係を統計学的方法により 1 日の生活時間構造を分析する目的で、彼らに対し生活時間調査を行ない、その実態と合理的な生活時間設計のための基礎資料を考察し若干の知見を得たので報告する。

生活時間調査は time study 法によりさきの栄養調査と併行して 1968 年 9 月初めの平均的週日の 1 日を選定して実施した。この資料をもとに 1 日の消費 Cal に対する各生活行動の配分比を求め、さらに 1 日の消費 Cal に対する各生活行動との関係を Pearsonian correlation を算出して考究した。

その主なる成績を男子についてみると、1 日の消費 Cal に対する各行動の配分比は彼らの生活を支える仕事による消費 Cal がもっとも大で、自由時間に消費する Cal は約 5% にすぎなかった。一方相関関係については彼らの生活に必須な行動としての仕事、授業、交通に要する消費 Cal において高い傾向を示していた。